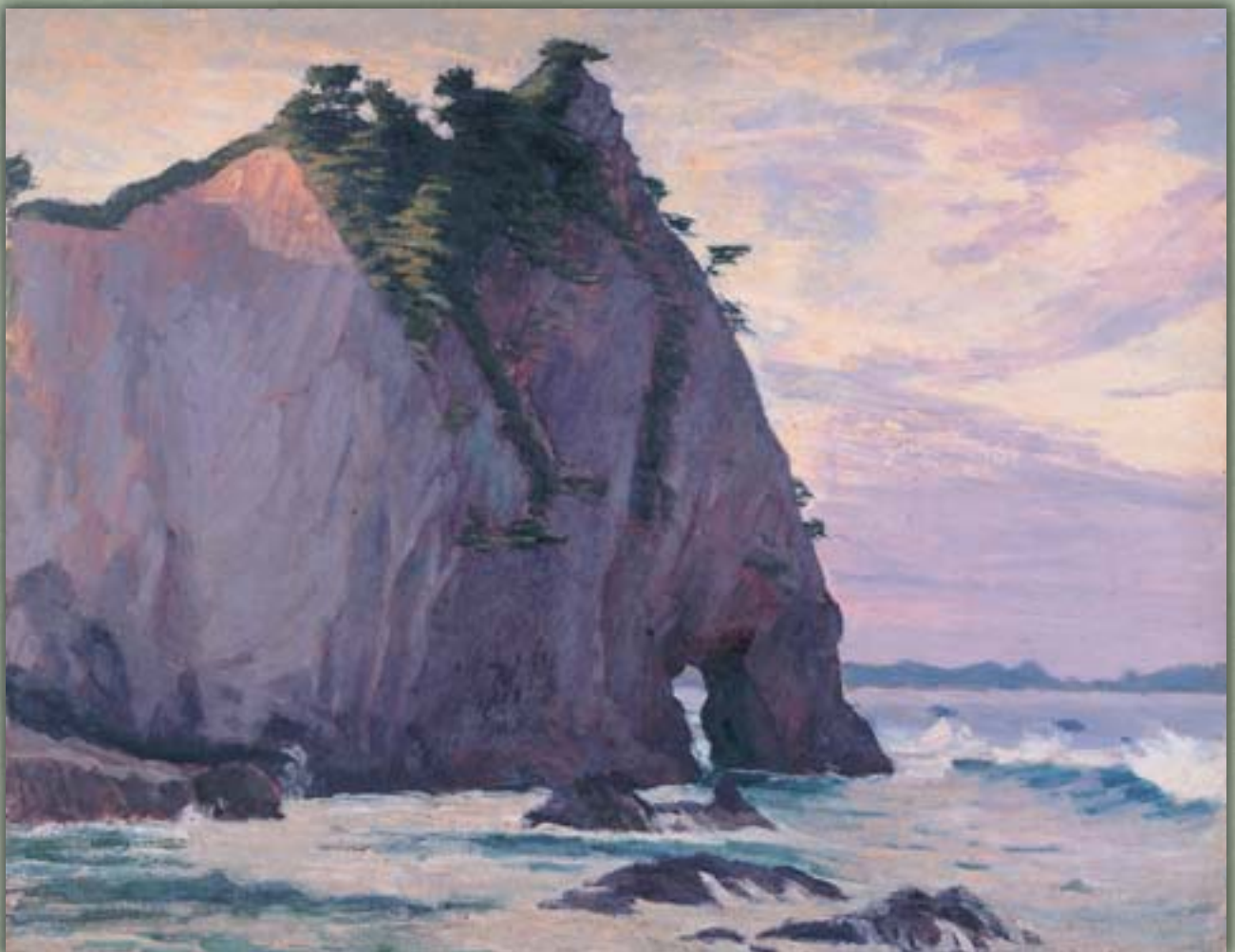


守り 創り 育てよう
ふるさと島根の景観

第19回

しまね景観賞



島根県

表紙のご紹介



小林萬吾《隠岐の島》

昭和初年頃、油彩・カンヴァス、91.0×115.0cm
島根県立美術館蔵

〈作品解説〉

小林萬吾は浜田市に親戚を持ち、たびたび島根県に來遊し作品を描いた。隠岐の島の断崖を描いたこの作品は、フランス留学後の昭和初年頃のものと考えられる。クロード・モネのエトルタの海岸を描いた作品群からの影響が強く見られ、外光派の黒田清輝に学んだ小林だが、本作では画題の選び方や描法が印象派に近いものとなっていると言える。明るい空を背景に、紫の影を持つ岩肌を美しく描き出した作品である。

〈作家解説〉

小林萬吾◎こばやしまんご

明治3(1870)年～昭和22(1947)年

香川県生まれ。明治19年に上京して原田直次郎、黒田清輝に学び、明治29年の東京美術学校西洋画科開設と同時に入学する。卒業後は同校教官となった。明治44年より文部省の命によりフランスに留学し、ヨーロッパ諸国を巡歴する。帰国後は、東京美術学校の教授となって後進の教育に尽力する一方、光風会会員、帝国芸術院会員に就任。黒田によってもたらされた外光派表現を用いた風景画を得意とした。

はじめに

島根には、緑織りなす山々や変化に富んだ海岸線、日本海に浮かぶ島々などの美しい自然、人々の暮らしの中から創り出された農山漁村の風景、先人の知恵が受け継がれた歴史的なたたずまいなど、それぞれに個性豊かで特色のある地域の景観があり、今も大切に守り育てられています。

県では、こうした優れた景観を将来にわたって保全するとともに、新たな魅力ある景観を創り育むことを目的に、平成3年制定の「ふるさと島根の景観づくり条例」に基づいて、様々な施策を進めております。

その一つであります「しまね景観賞」は、魅力ある島根の景観づくりに貢献しているまちなみや建造物、活動などを表彰し、快適で文化の薫り高い島根の景観を形成していくことを目的としています。平成5年の創設以来、今回を含め204件が受賞され、多くの県民の皆様より高い関心を寄せていただいているものと思います。

第19回となります今回は、8件の建造物や活動などを表彰いたしました。

受賞されました皆様には、心からお祝いを申し上げますとともに、審査委員の皆様や本賞の趣旨に賛同しご応募いただきました皆様に、厚くお礼を申し上げます。

今後とも、島根の魅力ある景観の保全・創造に向けて取組みを進めて参りますので、皆様の一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

平成24年2月



島根県知事
溝口 善兵衛

選考総評

第19回を迎えた「しまね景観賞」の応募総数は、130通であった。ここ数年に比べれば少ないが、近年の公共事業等の削減に伴う土木施設や公共建築物の減少を差し引いて考えれば、この賞が県民の方々に広く受け入れられてきていることがうかがえる。

選考に当たっては、まず書類審査で20物件を選定し、その後、現地審査と最終審査会を行い慎重に審議し、次の8件の建造物や活動等を選定した。

優秀賞は3件である。「まち・みどり部門」から選ばれた『吉栗の郷魚道堰とその周辺景観』は魚道堰の造形的にこちよく水が流れる様相、また自然を残す工夫と配慮がなされた懐かしい風景が評価された。「公共建築物部門」からは『雲南警察署阿井駐在所』と『矢上交流センター』が選ばれた。前者は従来の駐在所のイメージを一新し、明るく開放的でのびやかな造り、そして屋根の形状や外壁の仕様など、小規模ながらも景観に対する細かな配慮がなされている点が評価された。後者は山並みの稜線を生かした屋根勾配、細めの円柱と思いきりのよい曲線のバランス感が評価された。

奨励賞は5件である。「土木施設部門」から選ばれた『本庄水辺の楽校』は、子供達が遊びながら自然を大切に作る心を育む場として、直接生物と触れあえるように浅瀬や岩場を整備された点が評価された。「民間建築物部門」からは、緑の木々に囲まれひっそりとたたずむ『茅葺きのいえ』が選ばれた。「活動・工作物・その他部門」からは、昔ながらの情緒ある景観にニュアンスを添える『松江市中心市街地商店の引き戸「取っ手飾り」』、PTAや子供達の維持管理・美化活動により築後16年経った今でも美しく保たれている『大田市立北三瓶小中学校校舎保全活動』、決して豊かではなかったであろう先人の営みとそれを受け継ぐ島の人々の活動が評価された『鬼舞～放牧とヒメヒマワリと牧畑跡地保全～』が選ばれた。

今後も、この「しまね景観賞」が魅力あふれる島根の景観づくりに寄与するとともに、さらに多くの県民、事業者の皆さんがよりよい景観づくりに一層積極的に取り組まれ、生活と文化の豊かさを実感できる県土が築かれていくことを期待してやまない。

平成24年2月



しまね景観賞審査委員会
委員長

藤岡 大拙



まち・みどり部門

優秀賞

吉栗の郷 魚道堰とその周辺景観

出雲市佐田町一窪田

なだらかな低い山並みを割るような谷あいには国道184号線と神戸川が平行する出雲、佐田町一窪田地区の魚道堰とその周辺の景観は見るべきものがある。この魚道堰は間近に見ると水が流れる様相は造形的に心地よく美しい。流れは、あく迄も静かで動きすら見えない程なのだが、堰に至ると、いきなり水がほとぼしる光景となる。そして少しの間があり浅い川に大きな不定形の飛石が川を横切るようにリズム感を持たせ置かれているのが楽しい。それ等が一体となりこの川の魅力になっている。兩岸は自然石に見えるような石を使った護岸工事がされ、適度に草木が生え、しっとりなじみ違和感はない。地区の人達はこの周辺を大切に思い、何とか生き生きさせたいとこの川を中心に、様々な活動を展開発信している。夏場のカヌー、灯籠流し等、いろいろな川遊び、秋の黄紅葉の中での魚釣り、早春の川辺りの浅みどりの中での遊び等、それぞれの楽しみがある。その中で大人も子供も自然の良さ、フッと感じる怖さも体感し開放感を存分に味わうことが出来るように仕立てた。兩岸はみどり多い田畑の中に民家が点在しなつかしい美しい風景である。もちろん四季を通してそれぞれに趣があることは容易に想像出来る。そして丁度よい規模の広さは身を自然にゆだねられる安心感がある。コンクリート等を多用せず自然を残す工夫と配慮が見え、余りいじってないところが、景観として実に好ましいと感じた。

(山谷裕子)



事業主体 吉栗ドリーム

概要 河川整備を機に地元自治会を中心に景観を守り生かしていく活動を続けている。平成15年に河川愛護表彰を受け、現在は「吉栗の郷」水辺の広場として吉栗ドリームが管理をしている。夏休みには川の学校として解放もしている。



公共建築物部門

優秀賞

雲南警察署阿井駐在所

仁多郡奥出雲町上阿井

一見するとこの建物は町の雑貨屋さんか地場で採れた野菜か何かを売っていきそうな趣であるが、実は奥出雲上阿井の治安を守る駐在所なのである。従来の駐在所のイメージとは違い随分と明るく開放的でのびやかだ。住居・執務棟と車庫棟の2棟からなっているが一つのL字型の建物のようにも見える。それは深いポーチ屋根と車庫の片流れ屋根が連続している事に加え、この二棟の間に格子戸が設けてあることから一体感が生まれている。

それぞれの棟の規模は小さいものの、その一体感を持たせることによって、更に言えば囲まれた広場のような駐車スペースをもうまく取り込んで、小規模ながらも存在感のある建物となっている。

屋根の赤瓦といい、白壁や木製格子戸、また本屋根とポーチの庇それに連なる車庫の屋根の高さのバランスも程よく、周囲の景観にうまく溶け込んでいる。

駐在所といえば赤色灯がついた何の変哲もない建物が多いなか、この施設は地場で最もありふれた材料を使用することなどを始め、各所に景観に対する細かな配慮がなされていることに気づかされる。

〈小草伸春〉



事業主体 島根県

設計 島根県雲南県土整備事務所

施工者 有限会社勝山建設

概要

構造：木造

階数：平屋建て

建築面積：138.41㎡

(庁舎：112.80㎡、車庫：25.61㎡)

延面積：123.23㎡

(庁舎：97.62㎡、車庫：25.61㎡)



公共建築物部門

優秀賞

矢上交流センター

邑智郡邑南町矢上

邑南町は島根県のほぼ中央に位置し、山々が重なり盆地が多く、中国地方最大の江の川が北流し、町中には濁川が流れ、美しい町です。

江戸期には、たたら製鉄が生活の基盤を支えていました。昨今は、自然放牧の牛肉、豚肉やさくらんぼそして農産業を軸に参加型、体験型の観光などを進めています。

町のシンボルとなる交流センターはバリアフリーをよく考えた、ゆるやかな坂の上であり、丘から眺める風景は穏やかそのものです。集落は赤い石州瓦と白壁の町で、伝統芸能の神楽も盛んです。にぎやかな子供達の元気な声。小学校の校舎、体育館も見えます。

程よい大きさと好感が持てる建物は、細めの円柱と思いきりのよい曲線とのバランスが良い上に、山並みの稜線を生かした切り妻屋根の勾配の配慮など見事な仕上がりです。

丘の上全体を引き締めている角柱のゲート部分は心地よい空間を作り、ダイナミックに扱ったのが効果的だと思います。〈平本映子〉



- 事業主体 邑南町
- 設計 大旗連合建築設計株式会社
- 施工者 溝辺・三宅特別共同企業体
- 概要 構造：鉄筋コンクリート造（一部2階建て）
建築面積：1,601.51㎡
延床面積：1,459.07㎡



土木施設部門

奨励賞

本庄水辺の楽校^{がっこう}

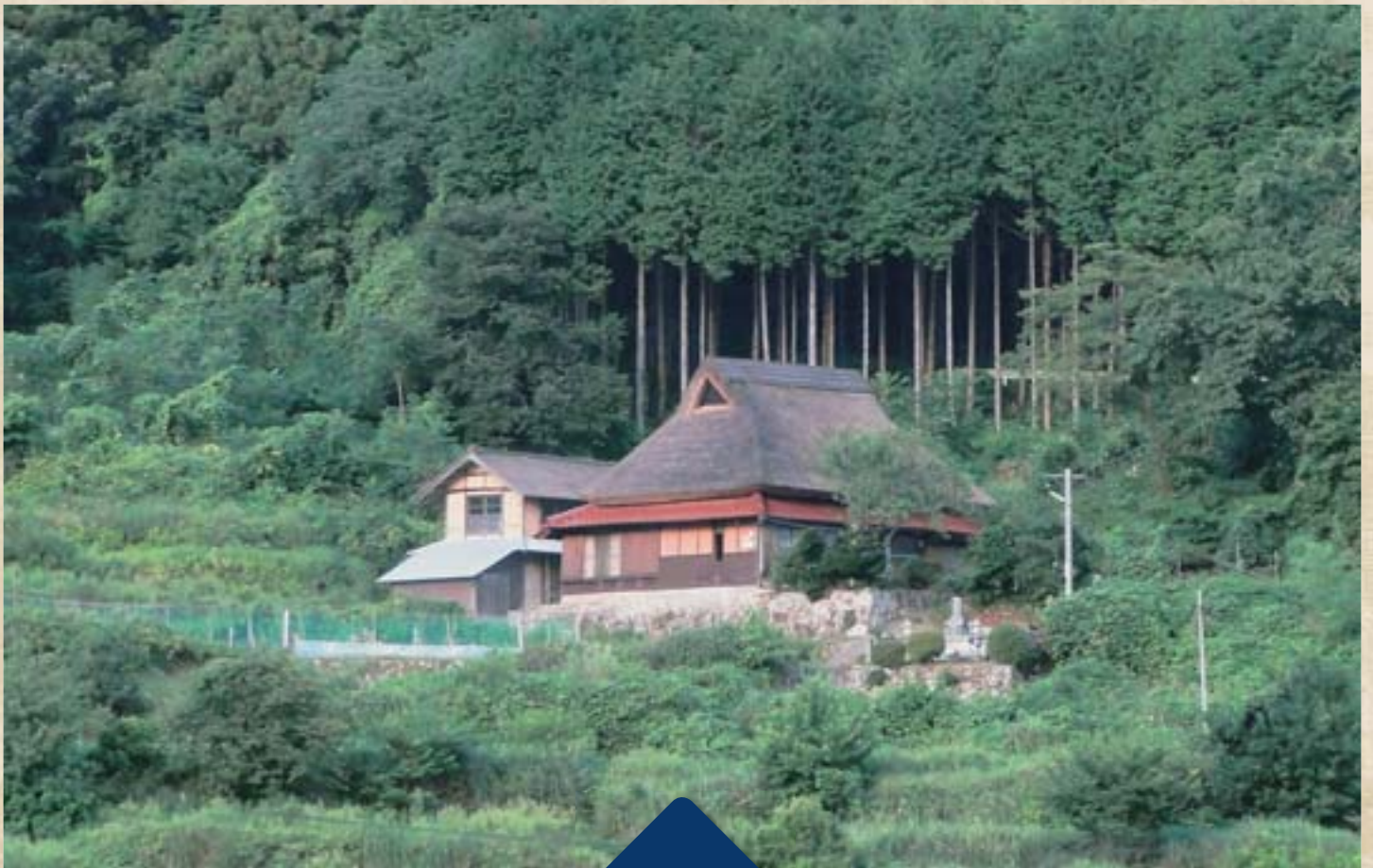
松江市邑生町～野原町

「本庄水辺の楽校」ですくすく育つ子供たち。

最近、屋外で遊ばない、集団で遊ばない子供たちが増えてい
ます。以前と比べて、身近に自然と触れ合える場所が減っているか
らだと思います。このようなことから、環境学習や自然体験活動
のフィールドを提供する場として「水辺の楽校プロジェクト」が、
国土交通省により推進されてきました。松江市立本庄幼稚園・小
学校・中学校では隣接する湖畔を利用して、平成22年7月に「本
庄水辺の楽校」が完成しました。3校の湖畔沿いには、全長420m
の歩道が設置され、小学校の南側を石積みの堤防で囲むように整
備したことから、中海の水位が低いときには、子供たちが浅瀬や
岩場でいろいろな生物と触れ合える場となりました。また幼稚園
の南側にある遠浅の砂浜は、幼稚園児や小学生の格好の遊び場と
なっています。このように「本庄水辺の楽校」は、遊びながら、
豊かな感性や自然を大切に作る心を育み、自分で考え行動する力
を養える場となっています。このような楽校がますます増え、こ
の楽校を巣だった子供たちが、やがては子供たちに夢を与える大
人に成長してくれることと思います。
(荒尾慎司)



- 事業主体** 松江市中海本庄水辺の楽校推進協議会
松江市
国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所
- 設計** 株式会社ヒロコン
- 施工者** 株式会社豊洋
- 概要** 施工延長：L=420m
掘削：V=1,600m³、盛土：V=440m³
覆砂：V=1,600m³、捨石：V=3,098m³
張芝：A=450m²、張コンクリート：A=782m²
舗装：A=930m²（玉砂利舗装：A=792m²、
真砂土舗装：A=138m²）
- 平成22年3月 完成
平成22年7月 開校式



民間建築物部門

奨励賞

茅葺きのいえ

邑智郡邑南町井原谷

邑南町井原は周囲を緑豊かな山々に囲まれている。その山裾の一角に、茅葺き屋根の一軒家が、緑の木々に包まれてひっそりとたたずんでいた。明治期の建築といわれ、相当年数を経ているが、Uターンして戻った家主たちの努力で補修され、しっかりした建物に再生されている。最近では、茅の調達が一苦労のようだが、家主や近隣の人々の努力でなんとか葺き替えができているようだ。分厚く積まれた茅の色と、シコロ庇の石見赤瓦のコントラストがいい。側壁のベンガラ色も周囲とよく調和している。入り口の壁に掛け並べられた農具が、この家の古い歴史を物語っているようだ。

家に向かって右手に、天にそびえるごとき柿の巨木が枝を広げ、農家らしい風情を演出している。私がこの家を訪ねたのは、晩秋の静かな午後だった。手のひらほどもある大きな柿の葉が、あたり一面に散り敷き、茅葺きの屋根の上にも積もっていた。

〈藤岡大拙〉



事業主体 服部 秀人

施工者 ケンチク イトウ

概要 構造：木造 平屋建
建築面積：145.60㎡
平成20年7月に茅の葺き替え完成



活動・工作物・その他部門

奨励賞

松江市中心市街地商店の引き戸「取っ手飾り」

島根県松江市 中心市街地商店街（末次本町・石橋町・東本町・茶町・八軒屋町等）

店々の引き戸に取っ手飾りを見つけたときの楽しさときたら。つい、「あ、あった〜」と。松江の市花「椿」もあれば、屋号や商いを表すものもある。左右の「縁」と「結」がハートのなかでつながる意匠に至っては、なるほどと感服し、見入るほどだ。店主の思いを映して個性さまざま。ひとつとして同じものはない。いま松江の中心市街地に点在する、取っ手飾りを付けた店舗は20を数えるという。

このプロジェクトを仕掛けたのは境港市の友森工業。金属加工の技術を生かして町並み景観の演出をと、2009年から各店舗に提案を始めた。第1号となったのが中屋万年筆店とか。ペン先と丸みのある軸尻をデザインした取っ手飾りが、出入りする客の表情を緩ませている。

それにしても、松江にはまだ引き戸の店舗が結構あるのだとあらためて気づく。そんな昔ながらの情緒ある景観に、ニュアンスを添える取っ手飾りの存在感。

このプロジェクトが民家にも広がり、40、50と増えていけばもっと面白くなる。取っ手飾りマップを片手に町巡りする人々の姿が目に見えようではないか。

〈伊藤ユキ子〉



事業主体 松江引き戸取っ手飾り金具普及プロジェクト商店連

施工者 有限会社友森工業

概要 松江市中心市街地にある老舗商店には風情のある「引き戸」の店が多いことに着目し、まちなみ景観の向上に寄与することを目的に、小さいながらも存在感のある「取っ手飾り」を発案。現在、主旨に賛同した20店舗余りが「取っ手飾り」を取り付けている。



活動・工作物・その他部門

奨励賞

大田市立北三瓶小中学校 校舎保全活動

島根県大田市三瓶町多根

昨年の11月初旬、文部科学省主催の「2010文教施設フォーラム」で、北三瓶小中学校の事例が報告され、現地見学会も行われた。「築後16年も経つというのに大事に使われているせいかきれいだ。景色もよくて木造の香りがまだあるようないい教育環境である。」などの評価があった。

当校は昭和33年、統合によって出雲と石見の峠付近に建てられた。そのため南に三瓶山を仰ぎ、西に日本海を望むことができる自然景観に恵まれた。

この学校の伝統として校舎が建て替わる前から、子供たちによる花作りが盛んに行われ何度か表彰もあった。新校舎になってからも子供たちの学校を大事にする心がけは変わらず続いている。

今回の受賞部門は「活動・工作物・その他部門」である。近年、PTAは、木造校舎の維持管理・美化に努めてきた。なかでも木造校舎の特徴である外壁の板張りなどの塗り替えを年次毎に夏休みに行ってきた。子供たちも校舎内の板張り床のワックス掛けを学期毎に行っているそうだ。山あいの学校で、子供たちも少人数。建て替わった時小学校は複式であった。今は当時よりも更に減って統廃合の波が押し寄せ岐路に立たされているという。

平成16年から「こだま学園」が開設され、全国からの留学生と一緒に学んでおり一定の教育成果が上がっていると聞く。

市の定住対策で就学児童を持つIターン家族が住み始めている。高齢化、限界集落などという現実には負けたくないが、この景観に恵まれた教育環境を守り、末永く後世に残してほしいものだ。

(渡部孝幸)



事業主体 大田市立北三瓶小中学校PTA

概要 平成8年に改築された木造校舎で、小中併設の学校である。外壁の木造部分の塗装の劣化が年々進んできた。そこで、PTAの奉仕作業で木造部分の塗装をすることにした。毎年塗装箇所を変えながら、何年かで全体が塗り終わるように、少しずつ継続して塗装の塗り替えを行ってきている。



活動・工作物・その他部門

奨励賞

鬼舞～放牧とヒメヒマワリと牧畑跡地保全～

隠岐郡西ノ島町浦郷

隠岐諸島の一つである西ノ島の南端。草を食む牛馬、多様な植物、人の営みの痕跡が残るこの鬼舞の地に起つ時、雄大な日本海と浮かぶ島々に目を奪われる。

隠岐諸島は火山活動により隆起した島であると聞く。起伏が激しく、表土は薄く、農耕には不向きなこの地に「牧畑」という農業が営まれた。牧畑とは、痩せた土地を複数の「牧」に分割し、牛馬を放牧することで土を肥やし穀物を育てる。それを繰り返すもので、かつては島全体に広がっていたと聞く。

現在、牧畑は廃れ、放牧地として使用されているが、牧畑を起源とするが故に土地の所有にこだわらず誰でも放牧が可能で、島外から移り住む人々も受け入れ、島の畜産業を支えている。牧畑の痕跡である牧を仕切るために築かれた石垣は、それを大切に想う人々により保存されている。

また、ここはヒメヒマワリの丘とも呼ばれ、その群生地の保存活動により緑の芝に彩りを添えている。まさに風光明媚という言葉がふさわしいこの地は、自然だけの産物ではない。決して豊かではなかったであろう先人の営みとそれを受け継ぐ島の人々の活動により形成されているのだ。だからこそ、今もこの地がここに有り、この景観を愛でることが出来る。だが、ここを訪れる我々がたとえそのことを知らなくとも、この地は暖かく迎えてくれるであろう。我々の想いなどどうでも良い。この地はただ一途に雄々しく、そして優しいのだ。

さあ、この景観を楽しもうではないか。満喫しようではないか。牛馬と戯れ、海風に吹かれながら。

(西野賢治)



- 事業主体** 牧畑を後世に伝える会
西ノ島町
- 概要** 平成17年4月活動開始
年間活動参加人数：約30名
年間活動回数：随時



第19回 しまね景観賞

まち・みどり部門
優秀賞 ① 吉栗の郷
 魚道堰とその周辺景観
 事業主体／吉栗ドリーム

公共建築物部門
優秀賞 ② 雲南警察署阿井駐在所
 事業主体／島根県

公共建築物部門
優秀賞 ③ 矢上交流センター
 事業主体／邑南町

土木施設部門
奨励賞 ④ 本庄水辺の楽校
 事業主体／松江市中海本庄水辺の楽校推進協議会
 松江市
 国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所

民間建築物部門
奨励賞 ⑤ 茅葺きのいえ
 事業主体／服部 秀人

活動・工作物・その他部門
奨励賞 ⑥ 松江市中心市街地
 商店の引き戸「取っ手飾り」
 事業主体／松江引き戸取っ手飾り金具普及プロジェクト
 商店連

活動・工作物・その他部門
奨励賞 ⑦ 大田市立北三瓶小中学校
 校舎保全活動
 事業主体／大田市立北三瓶小中学校PTA

活動・工作物・その他部門
奨励賞 ⑧ 鬼舞～放牧とヒメヒマワリ
 と牧畑跡地保全～
 事業主体／牧畑を後世に伝える会
 西ノ島町



しまね景観賞表彰銘板

審査委員

- 土木工学 **荒尾 慎司**
独立行政法人国立高等専門学校機構
松江工業高等専門学校
環境・建設工学科教授
- 作家 **伊藤ユキ子**
紀行作家
- 建築業界 **小草 伸春**
(株)小草建築設計事務所代表取締役
- 行政 **西野 賢治**
島根県土木部長
- 芸術学 **八田 典子**
公立大学法人島根県立大学
総合政策学部教授
- デザイン **平本 映子**
松江生活デザイン研究所主宰
- 歴史学 **藤岡 大拙**
島根県立大学短期大学部名誉教授
- 美術 **山谷 裕子**
画家
- 建築学 **渡部 孝幸**
大田市町並みアドバイザー

敬称略/50音順 ○印は審査委員長

審査経過

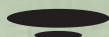
- 募集期間
 ～平成23年 8月31日(水)
- 募集結果
 応募総数 130通
 応募物件 124件
- 第1次審査(平成23年 9月15日～9月29日)
 応募書類、写真をもとに第2次審査の対象となる20件を選定
- 第2次審査(平成23年10月26日～11月7日)
 選出された20物件について現地審査及び最終審査を行い、8物件を選定
- 表彰式(平成24年 2月2日)
 受賞物件の事業主体、設計者及び施工者に対して賞状を、事業主体には副賞として銘板も併せて贈呈

第19回

しまね景観賞

第1次審査結果

部 門	名 称	所在地
まち・みどり部門	吉栗の郷 魚道堰とその周辺景観	出雲市
	出雲平野～築地松散居集落と農地活用～	出雲市
	柿木村の陸わさびと千年杉	吉賀町
土木施設部門	西灘公園	松江市
	佐太神社前の河川改修	松江市
	本庄水辺の楽校	松江市
公共建築物部門	雲南警察署阿井駐在所	奥出雲町
	浜田駅舎	浜田市
	矢上交流センター	邑南町
	和紙の郷「石州和紙会館」	浜田市
民間建築物部門	斐川町の茅葺き屋根の民家	出雲市
	稲積家住宅	邑南町
	茅葺きのいえ	邑南町
活動・工作物・その他部門	松江市中心市街地商店の引き戸「取っ手飾り」	松江市
	INAKAイルミ@おおなん	邑南町
	大田市立北三瓶小中学校 校舎保全活動	大田市
	益田市飯浦自治会	益田市
	宍道湖のシジミ漁	松江市
	アジサイロードふるさと畑迫	津和野町
	鬼舞～放牧とヒメヒマワリと牧畑跡地保全～	西ノ島町



シマネスク・島根

平成24年2月

〈企画・編集〉 島根県土木部都市計画課